

「覗かれる人」(作／川守慶之)

【登場人物】

旅人A (男)

旅人B (女)

旅人C (熟年の女)

地元の人 (男)

ある芸術祭「島ドクメンタ」期間中の島。ほとんどの観光客は連絡船で本土に戻るなか、島に残って宿泊する旅人がいる。そんな旅人の一人、仮に旅人Aが、民泊の主人から教えられた島唯一の飲食店であるお好み焼き屋さんに行く。すでに混み合う店内。旅人Aは4人用のテーブルでの相席を強要される。そこにはすでに若い女、仮に旅人Bが着席して雑誌を読んでいる。旅人Bの前には空になった生中のジョッキが置かれている。

旅人B 今、イカ玉注文した？

旅人A えっ？

旅人B だから、イカ玉注文したか？て聞いているの。

旅人A ええ、まあ。

旅人B ここが島だから？魚介類の方がおいしいと思った？

旅人A はあ、もしかしたら無意識的に…

旅人B ビンゴ！ やっぱり。わたしもなのよ。この島、タコが有名らしいけど、さすがにタコ玉はないじゃん。で、イカ玉にしたわけ。

旅人B でも、このお店、なかなか出てこないわよ。

旅人A えっ、何がですか？

旅人B だから、イカ玉！

そこに、夜なのにサングラスをかけた、年配の女、仮に旅人Cが豹柄のスーツケースを引きずって入ってくる。相席を求められて、旅人A、Bのテーブルに着く。

旅人C このお店、全然注文取りに来ないわね。どうなってんのかしら？

ねえ店員さん、注文お願いします。あとお水も。

旅人B 今、イカ玉注文しました？  
旅人C えっ？  
旅人B だから、イカ玉注文されましたか？  
旅人A ええ、まあ。  
旅人B ここが島だから？魚介類の方がおいしいと思われました？  
旅人A はあ、もしかしたら無意識的に…  
旅人B ビンゴ！ やっぱり。わたしたちもなんです。この島、タコが有名ならしいけど、さすがにタコ玉はないじゃないですか。それで、イカ玉にしたんです。

旅人C おたくさんたち、アベックさん？  
旅人B アベック！ まさか?! 化粧気ないでしょ。見てのとおり、断然、女一人のバックパッカーです。

旅人C あらそう。若い女の子が一人で…どこから来たの？

旅人B 愛知です。名古屋。

旅人C ふうん、名古屋。

旅人B 名古屋と聞いてなに連想されます？

旅人C そうねえ、きしめん、手羽先、あとは…

旅人B 味噌カツ？

旅人C そうそう、それ。食べ物ばかりだけど…なんか、美味しいものがいっぱいあるイメージよね。うらやましいわ。

旅人B 逆に、食べ物以外あんまり印象がないんですよ。大きな都市なのに。

旅人C あとは…ゴージャスさとかゴールドとか。結婚式がとても豪華とか聞いたことがあるけど、それってほんとなの？

旅人B 人によるとは思いますけど。結構、豪華かもですね。

旅人C 名古屋人て見栄っ張りなのかしらね？

旅人B そんなことはないと思いますけど。

旅人C あら、ごめんなさい。

旅人B お気になさらず。

旅人C で、お兄ちゃんはどこから？

旅人A あっ、僕ですか。北陸のほうですけど。

旅人C まあ。(旅人Bを見て) 行ったことある？

旅人B なんか特急あるよね？

旅人A サンダーバード？

旅人B ちがう。名古屋から出てるの。

旅人A ああ、しらすぎですか。

旅人B そうそう、それで金沢に行ったことある。いいところだけど。

でもなんか・・・「日本海」て感じよね。

旅人C 「日本海」て感じ？

旅人B なんか「重い」ていうか。

旅人C でも、魚とか美味しいんでしょう。それだけで十分じゃない。

旅人B まあね。確かに魚は美味しかったけど。

(スーツケースをちらつと見て) お姉さんはこの島にいつ？

旅人C 今晚この島に着いたばかり。港からすぐにこの店に来たわ・・・

え、どこ出身か？て、福岡よ、福岡。博多。ここに来るのに新幹線と電車と船を乗り継いで何時間もかかって・・・ああ疲れた。

旅人B 博多！ 博多といえば、とんこつ、明太子・・・

旅人A なんだか日本中グルメだらけみたいですね。

旅人B それで、お姉さんも「島ドクメンタ」を見に来たわけですよ。

旅人C まあね。でも私は小難しい「アート」とかわからないから。でも、テレビとかで騒がしくこのことやってるじゃない。それでどんなものかな？て興味があつて、旦那を置いて気楽な一人旅よ。

旅人B 私もたぶんアートというよりは旅が好きなのかも。芸術祭みたいな機会があると、普段ではいかないうような未知のところに行くことができ、非日常に触れる感覚でその土地の風俗とか生活とかを覗くことができる。

(間)

旅人C 呆れた。いったいどれだけ待たせるのよ。

旅人B あのすごい勢いで焼いているのは誰の？て感じ。まっ、生中はとりあえず来たわけですし、乾杯しましょう。

旅人ABC 乾杯！

旅人C ぶはあ、うまい。旅でのビールは最高ね。それにしても世界はこんなに広いのになんな小さな島で、お好み焼き屋さん出会うなんて奇跡的なめぐりあわせよね。で、みなさんの旅のご予定は？

旅人B 私は今日、島に着いているいろを回りました。で、一泊して明日早くに船で別の島に。

旅人C へえ。慌ただしいわね。それでこの島でオススメのところある？ どこか面白いところ教えてよ。

旅人B まあ、無難に、美術館かしら。

旅人C でもすごく混んでいるって聞いたけどそれ。

旅人 B はい、混んでいました。わたしも2時間くらい待たされて。でも実際見てみたらあつけないものでした。

旅人 C まあいいわよ。私の場合、アートの事なんてわからないから。どうせ写真を撮って土産話にそこに行ったという証拠さえ残せばいいのよ。

旅人 A ……それにしても肝心のイカ玉はいつまで待たせるのかしらね。このお店。たぶん注文忘れられているのではないかと。

旅人 C もう、街のお店だとありえないわね。

旅人 C で、お兄ちゃんはどうだったこの島？

旅人 A それが、僕、今日は全然ついてないんです。午後の連絡便で到着したんですけど、島めぐりのために自転車を借りようとしたら、レンタル屋になかったんです。店の中まで入ってみたんですけど、がらんとした様子で奇妙な静寂に包まれていました。ただし、店の中にも外にも自転車らしいものの影も形も見えなかったのでおかしいなと思って、近くの屋台のおばちゃんに聞くと、昼前にはレンタルサイクルが全部なくなり、それ以来、店の主人の姿が見えないと言ってます。

旅人 B 予約してなかったの。

旅人 A 予約できると知らなかったんです。しょうがないので急いでバスに乗ろうとして、ちようどバスの発着所に着いたときにバスが発車してしまいました。行き先とかよくわからないから慎重に調べていたのがよくなかったみたいで。行き先とかわいそう。

旅人 A その時、港のバス待合室の時計は13時38分で、時刻表を確認する限り、バスは13時38分ジャストに出発したことになります。しょうがないので次のバスの時刻まで、正確にいうと13時50分まで、12分、時間がありました。その時間をロスすることができなかったんです。だってこの島には、見るべきアートのポットが公式に19か所もあって、それをその日の午後ですべてまわると固く心に決めてたので、その間に僕は、自転車でなくバスでの島めぐりの計画を立てるべくガイドブックと時刻表とにらめっこしました。この島には2つの港と1つの集落そして灯台があって、連絡船が着く港Aと島の向こう側の港Bとの間に集落Cがあつて。アートのスポットは港Aに10か所、集落Cに4か所、港Bに2か所。港Aと港Bを時計回りにぐるっと迂回すると、長く突きでた岬の先に灯台があつて、この灯台もアートのスポットだから全部で計19か所。

旅人 B 私はまだ灯台のほうには行ってないけど。バスなんて本数少ないしバスを使つてすべてのスポットを回るなんて不可能でしょう？

旅人 A 実はそうじゃなかったんです。僕は奇跡的な解決策を見つけました。まず13時50分に出発するバスに乗ると14時03分に集落Cに着きます。で、次に港Bに向かうバスは14時32分。つまり集落Cには29分滞在できるわけで、4つの

スポットがあることを考えると1つにつき7分以上の時間があるわけです。僕の経験上、でこぼこはあるものの平均すればそれは可能でした。

14時32分発のバスに乗り、3分後に港Bに到着する。港Bから灯台のある岬に向かうバスが14時55分にあるので港Bの滞在時間は20分ちようど。つまり1つのスポットにつき移動時間込みで10分。これは比較的余裕があります。港Bのアートスポットは中心部よりすこし離れているので、ほとんどは移動時間で消費されるでしょうけど、島のアートなんてどうせ一瞥すれば終わるんですから。

計画ではバスは15時15分には灯台のある集落に着きます。スポットは岬の先端にある小さな灯台。15時49分のバスに乗ればめでたく港Aに15時58分には戻って来られる。

港Aは坂の街です。複雑な迷宮のような構造の街ですが、スポットは固まっているし健脚自慢の僕ですから1時間もあれば十分に10カ所回れる構想でした。そして本土に戻る連絡船の出発時刻は17時。

**旅人C** あなたって相当狂っているのね。

**旅人B** 計画性ないようで非現実な計画は立てるわけね。

**旅人A** 嗤ってください。ご想像のとおり、僕の計画はすぐに破たんすることになりました。バスで着いた集落Cの民家を改築した各アートスポットは、記憶の底に沈んでいくイメージが立ち現われてくるような感動がありました。ただその空間に立ちつくし漂っていると、いつの間にか時間は過ぎてしまいます。でもそのような感傷に浸っている暇はありませんでした。僕には自分に課したアートスポットコンプレイトというミッションがあつたのですから。でもそんな急いでいるほど案内のおばちゃんがつこく話しかけてきたりするんです。こちらの迷惑を省みず。

(その後の旅人Aのモノローグは、旅人B旅人Cと立ち代り入れ替わり人稱を変えて展開する。)

**旅人B** 彼は、おばちゃんとの無駄話で13分以上費やしてしまいました。すでにこの集落で20分も費やしてしまったわけで、残された時間は9分ほど。彼はその日は朝

から何も食べていなかったのですが、もはやお店に立ち寄ることは時間的に許されませんでした。残り2つのスポットを平均4分30秒で回らなくてはならない。しかしその次もその次も彼は時間制限を守ることができませんでした。バス停に戻ってきたのは14時35分。バスがすでに出発後であるのは待つ人影がないことで明らかでした。

### 旅人C

バスを乗り遅れた絶望感が彼を襲いました。しかし、彼にはこの逆境をポジティブに考える力が備わっていたようです。港Bまでバスで3分しかかからないなら、歩いてそんなにはかからないはずと考えたのです。

しかし、それは甘い考えでした。その日は、秋も深まった時期であるのに、異様に暑い日でした。彼は上着を脱ぎ、丁寧に丸めてリュックに押し込み、代わりにタオルを取り出して汗をぬぐいました。しかし道は屈曲を重ね視界はなかなか開けず、空は迫ってくるように彼を押しつぶし、めまいと吐き気に襲われました。

### 旅人B

ようやく視界が開け、眼下に港と停泊する白い船が見えた時、尋常でない解放感が彼にはありました。長い航海の果てにイタケに帰り着いたオデュッセイアが見た光景もかくやと思ったことでしょう。しかし、時計を見るとすでに15時を過ぎていました。島のアトスポットをすべて巡るという小さくも偉大な戦いに敗れ去ったかと彼は思いました。港Bで回った2つのスポットについて彼はあまり覚えていません。

### 旅人C

灯台の集落へ向かうバスに乗れなかった彼は、みじめな気持で港Aへ向かうバスに乗り込みました。港Aについたのは15時52分。港は一日の観光を終えた客が、連絡船がくる港口に集まり始めていました。彼は港Aの10カ所のスポットを巡りましたが心ここにあらずで楽しめませんでした。

しかし、どうやら海とそこに浮かぶ島々を総べるポセイドンの神は彼を見はなさなかったようでした

灯台のスポットを残し、島を去る決意で船着き場に戻ろうとしたとき、最初に訪れた自転車屋が目飛び込んできたのです。

### 旅人A

僕はたまたま自転車屋を覗きました。そこに、「灯台まで往復40分」の張り紙があったのです。すぐに隣の柱時計を見ると16時10分でした。間に合うと思っただけです。

旅人C なんかも松本清張『点と線』みたいな話ね。

旅人B なんですかそれ？

旅人C なんかもあるじゃない。通常じゃない鉄道ルートで点と線がつながって犯人のアリバイが崩れるみたいな。

旅人B へえ。松本清張といたら『日本の黒い霧』しか知らなかった？GHQの陰謀。

旅人C 若いのにそれ知ってるほうがおかしいんじゃないの。

旅人A 僕は自転車をこぎ始めたのです。

日が傾きかけ次第に赤身を帯びている中、鬱蒼とした峠道に向かって進むのはかなり不安がありました。この先に何があるのか見届けたい、そしてなぜか自転車という乗り物のもつスピード感や快適性の誘惑に抗しきれなかったのです。すぐに町はずれが来ました。そこから少しずつのぼりとなっていきましたがそれほど苦しいことはありませんでした。

旅人B しかし、そこから先が大変でした。坂は急にきつくなり、目の前に坂道が立ちふさがるようでした。彼は立ち乗りになりやがてペダルを放棄して、自転車を引いて登っていきました。その時、彼はむかしフランスの自転車選手が信じられないくらい

の坂道を驚異的なスピードで登っているのをテレビで見たことを思い出しました。その自転車とその乗り手は糸に引かれているように苦しそうな様子は一切なく、まさに自分にとってのヒーローの原型なのかもしれないと思いました。

旅人C

峠を乗り越えようと下りになり、灯台のある岬の集落が見えてきました。

道のおわりで彼は自転車を乗り捨て、浜辺に下りていきました。波は静かでしたが水平線にはいくつかの島影が浮かんでいました。

岬の突端に立つ灯台は、古い石造りの城塞の塔のようでありほとんど畏怖の念を起させるものでした。

彼はそこにいることので幸福感じばし浸っていました。

彼が港Aにもどった時、17時ちょうど発の最後の連絡船の汽笛がなりました。いつの間に時間が過ぎていたのか、灯台で時間を取られたのか、

旅人A

そんなわけで、僕は連絡船に乗り遅れ、この島に置き去りにされてしまったんです。そこで自転車屋に宿を紹介してもらって、でも急だったから夕食は出してもらえなくて、その宿の方に旅人が集うお店ということで教えてもらったのがこのお好み焼き屋さんというわけです。

旅人B 整理していい。あなたは午後4時過ぎに自転車で灯台に向かった。灯台までの所要時間は往復で40分。だけど船には乗り遅れた。余裕で間に合う予定だったのになぜ？

旅人C なんかない不思議な話ね。

旅人A 僕もどうして連絡船に乗り遅れることになってしまったのか、なんか、よくわからないというか。その理由が覚えありません。

旅人B えっ、何それ。やばいんじゃないの？記憶喪失みたいな。

旅人A そうなってくるとそもそもなんでこの島にいるのか、目的そのものがあいまいなんです。

旅人B でもさっきは、あなたはこの島の19のアートポイントすべてを回る決意だといったじゃない。

旅人A それはそうなんですけど・・・そう決意したのは島に着いてスタンプラリーのカードをもらってからなんです。

(間)

地元民 えっ、イカ玉ないの？どうして？

旅人B おっ、イカ玉キター やっぱり、地元の人もイカ玉頼むのね。

旅人C イカ玉で思い出した・・・私たちのイカ玉はどうなったの？もうどのくらい待たされたのか時間の感覚ないけど。

地元民 おっかしいなあ。さっぱりわからん。世の中どうなってるんじや。

旅人B (小さい声で)それは私たちが注文しちゃったからです。

旅人C しっー聞こえるって。

(地元民に語りかける感じで)わたしたちも注文したはずのものが来ないんですよ。ほんとうにどうなっているんでしょうね、このお店。

地元民 (ぼそぼそ未練がましく)怪奇現象だろうな。お好み焼き屋にイカ玉がないなんて・・・ところどころしてみなさんこの島に残って、泊まることにした？本土で泊まる方が便利だろうに。

旅人C どうしてって。

旅人B 島での泊まるのは貴重な経験というか。こういう経験はめったにないじゃないですか。土産話にもなるし・・・

旅人C 私は島めぐりの都合でこの島にしたんだけど。

旅人B あと値段も安くて助かります。私、こうみえても女バックパッカーなので。

旅人C 見た目100パーセントバックパッカーじゃない。



旅人A さっきは自分でもそう言ってましたよ。  
旅人B なんてこんなとこだけ記憶力いいのよ！

ともかく、ドクメンタの期間中は、一般の方が宿を提供してくれるプロジェクトがあつて、島の人も触れ合えるしとてもいい機会だと思います。

地元民 熊八の家だろ。

旅人B えっ、どうして知っているんですか？

地元民 島の者なら、なんでも知っているよ。

旅人B ……確かに「熊八さん」のところですけど。

地元民 熊八のところはどんなふうだ。

旅人B 快適ですけど。

地元民 うそだろ。あんな狭いところに二段ベッドで何人も入れてな。

旅人B まあ、そういわれれば、島の民家だともっとゆっくり泊まれるのかなと思つてたし。

旅人A 実は僕も今晚は熊八さんの家です。

旅人B そうだったの？ もしかして、宿で既にあいさつしてたっけ。

旅人A ……ええ、宿で見かけた時に軽く挨拶しました。

旅人B ごめん、わたし近眼だから…というか、店に来たときそうと言ってよね！

地元民 あいつんところはうまくやりやがつて。

旅人B うまくやったつて？

地元民 補助金。行政の制度をつかつて補助金貰つて家を改築したんだよ。

旅人C (声をひそめて) なんかややこしい話になつてきたわね。

旅人B つげ義春『リアリズムの宿』みたいな？

地元民 そもそもこの「島ドクメンタ」の期間中にわざわざ来なくてもいいだろう。

旅人B まあ確かに、一年中やっていますしね。

地元民 だったらもつと空いている時期に来ればいい。

旅人C とはいつても、割引はあるし。

旅人B 安く一気に回れます、みたいな。

地元民 結局は「安く一気に回れます」というだけでこんなに人が押し寄せるのか。そんなのは好かんな。

旅人C でも、地元の人たちもボランティアで参加していて芸術祭として盛り上がっているじゃない。

地元民 みんな最初は面白がつてボランティアで参加していたけどずっとは続かん。

旅人C やつぱり地元の方々の不満はたまつているのかしら？

地元民 まあどうだかね。人によるんじゃないか。

旅人A イカ玉が全然来ないというのもそれに関係するのかな。

地元民 ここのおかみも一人でこの店を回しているからなあ。一時期だけ人が来るから人を

増やすというわけにはなかなかいかん。

地元民      ところで、どうして君は船に乗らなかったんだ？

旅人A      え？

地元民      君の行動はずっと見ていたよ。自転車を返して、栈橋から今日最後の連絡船に乗り込む直前になって走って逃げだしたじゃないか？

旅人A      どうしてわかるんですか。なにがなんだかもうさっぱりわからない。島とはなんなんだ？

そこに、突如としてイカ玉が届く。食事後、旅人Aと旅人Bがお店から出る。

旅人B      イカ玉、地元の人が食べにくくらいなのに案外普通だったね。まずくはないけど、めっちゃ美味しいというわけでなく。

旅人A      大王イカが出てきたら面白かったですね。

旅人B      何言ってるのよ。でも、なんか観光客で悲しいわね。私たちはスタンプラリーみたいな旅しかできない。地元の人たちから見ると滑稽なのよ

旅人A      でも、四国にもお遍路とかあるし。スタンプラリーの原点はかれらなんじゃ。

旅人B      言ってる。結局、スタンプラリーの好きなこと、どこでも。